

ライフイズビューティフル
Life is beautiful

KUNST ARZT では、初となる
井上有美子の個展を開催します。
井上有美子は、刺繍を通して、心惹かれた風景や
小説から想像したイメージをタブローにする
アーティストです。
色を塗り重ねるように、時間をかけて、
色糸を一本一本縫い込むことで生み出される
タブローの、特に「動物」や「植物」は、
油絵具などでは表現できない、
生のエネルギーを内包しています。

(KUNST ARZT 岡本光博)



経歴

1975 年 生まれ
1996 年 嵯峨美術短期大学油絵科卒業
2004 年 ディーズファッション専門学校卒業

個展

2009 年 同時代ギャラリー / 京都
2010 年 同時代ギャラリー / 京都
2011 年 同時代ギャラリー / 京都
2013 年 Ducemixshop / 京都
2014 年 恵文社一乗寺店 / 京都
2015 年 恵文社一乗寺店 / 京都
2018 年 恵文社一乗寺店 / 京都
2019 年 恵文社一乗寺店 / 京都
2021 年 恵文社一乗寺店 / 京都
2023 年 rouluer studio / 天満橋

グループ展

2017 年 三軌展 (京都市美術館別館・東京新国立美術館)
2018 年 三軌展 (東京新国立美術館・京都市美術館別館)
2019 年 三軌展 (東京新国立美術館・京都市美術館別館)
2021 年 SOU 茨木市アートプロジェクト
2022 年 三軌展 (東京新国立美術館・京セラ美術館)
2022 年 合同展「刺繍絵と帽子」(阪急梅田本店)

変化

2019
麻布に綿・絹糸
1000×803 mm
8 枚組の一枚

地球上に生まれては滅んでいく生命。
ある種が減んでも、また新しい種が誕生する。終わりは次への希望なのだ、変わること、生きること
に思いを寄せていたころの作品です。

2025 年 1 月 21 日 (火) から 26 日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

井上 有美子 個展

INOUE Yumiko solo exhibition

ライフイズビューティフル

Life is beautiful



ステートメントおよび展覧会について

子どものころから絵をかくことが好きでしたが、20代の頃、美術からもふつうの生活からもはずれ、ひきこもりました。生き直そうと、専門学校に行き縫製工場で働きました。望んでいたふつうの人らしい生活でしたが、何か作りたい、創り出したい気持ちがあふれていました。糸で絵が描けるやん、と最初はほんの思いつきでした。制作をはじめました。20年以上たちました。手芸である。絵でもある。どちらでもないかもしれない。仕事につながらない制作でした。他からの目、評価を気にしていました。今は思いません。制作しない生き方は考えられないからです。誰も見向きしないものに価値を見出すことがアートなら、私の制作はアートだと言えます。テーマもメッセージもありません。動機も制作も素朴なので難しい言葉で飾ることはしたくありません。心、風の音、草の音、匂い、動物たちの息吹き、糸でそんなことが伝えられるなら、やってみたい。できれば一生続けたい。展覧会タイトル 「ライフイズビューティフル」 Life is beautiful

ここ数年、魂の在りかたにひかれています。本来の魂が持っていなかった妬みや怒りなどの負の感情を少しずつ手放しています。まだまだゼロではありません。生きることは素敵で楽しいこと。やっとそう思えるようになりました。ありきたりな言葉ですが今回の展示をこれまでのプチ代表作展とたく、このタイトルにします。ライフイズビューティフルです。



草むら

2013

麻布に綿・麻・絹糸

410×318ミリ (F6)

犬塚勉、ワイエスの描く風景画にひかれていました。足の治療で入院中、病院裏の川べりの草むらをよく眺めていました。こんなただの草むらを表現できないかと思い退院後に試みた作品。



一角獣

2008

綿布に綿・絹糸

455×380ミリ (F8)

村上春樹の小説「世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド」からのイメージです。

子どものころから、物語を読むと映像がうかび絵にしたいくなります。

初期はこんなふうに物語からイメージした絵を制作していました。



奥からこんには

2024

麻布に絵具、綿・絹糸

100×727ミリ (P40)